

女子部中等科3年 体操

「世界がつながるオリンピック」

山田 恵子

中等科3年は東京オリンピックを目前に控え、「世界がつながるオリンピック」と題して教科横断的な学びに取り組んだ。調べ学習や様々な活動を行う他、戦争体験を伺う平和学習や広島海山研修での経験、また国際ピエール・ド・クーベルタン委員会副会長の田原淳子教授や卒業生でパラリンピック選手の有安諒平さんにもお話を伺い視野を広げてきた。それらの学びから「歴史」「競技」「文化・国際交流」「オリンピックの精神」「2020年に向けて」の5つのグループに分かれて報告した。クーベルタンは身体と意思と精神の調和のとれた若者を育成することが大切であり、スポーツを通して異なる文化を理解し認め合うことが平和につながる、人類の調和のとれた発展に役立てることがオリビズムの目的であると述べた。オリンピックの本当の意味を学び、平和をつなぐ一人としてそれぞれの使命に気づき、学校でのオリビズムにつなげていく学びとなった。

I. はじめに

2020年、いよいよ東京でオリンピックが開催される。近代オリンピックはクーベルタンによって提唱され、世界中の若者がスポーツを通して互いに理解し認め合い友好を深めることが世界平和に貢献すると願い創られた大会であり「平和の祭典」として発展してきた。私はこの夏「国際ピエール・ド・クーベルタンユースフォーラム(於フランス)」に引率者として参加の機会をいただき、23カ国120名余りの若者が共に活動する中で、人種、国籍を超えたスポーツ、文化の交流が平和の礎となることをまさに実感した。東京オリンピック・パラリンピックが様々なメディアで注目される中、生徒の中にはオリンピックは特別なもの、あまり関わりがないと考える人もいる。現在のオリンピック・パラリンピックはオリビズムの理念のもと、競技者だけでなく私たちも「学ぶ(知る)、観る、する(体験・交流)、支える」といった視点から様々な関わる機会がある。中等科3年生も報告会の学びからオリンピックに込められたオリビズムの精神を理解し、積極的に関わる素地を育み、それぞれの生涯においても平和をつなぐ一人になるよう学びを深めていった。

II. 報告会までの学習

授業では通常体操会までデンマーク体操の実技を中心に行っている。そこで教室内に様々なスポ

ーツ選手の活躍やエピソードをポスターで紹介したり、オリンピックについての映像や普段馴染みのないパラスポーツの経験としてブラインドサッカーやシッティングバレーにつながる運動を紹介したりと少しずつ関心が持てるようにしていった。また夏休みに各自がオリンピックに関する題材を選びレポートにまとめた。レポートの題材はオリンピックの歴史、競技、パラスポーツ、競技場、ボランティアなど多方面に興味を持ち、身近な施設を訪ねるなど工夫して調べることができた。2学期にはグループごとに調べた内容を報告し合い学び合った。

また、9月の平和学習では小澤俊夫さんの戦争体験、10月の広島研修旅行前には法政大学の大里知子先生に歴史的な視点での戦争の話、広島では被爆体験や大久野島での毒ガスの製造のお話も伺った。その中で若いときからの身近な異文化交流の大切さ、相互理解の大切さを伺い、皆の中に平和をつなぐ意識が高まった。

本格的な報告会準備前に、国際ピエール・ド・クーベルタン委員会の副会長、田原淳子教授をお招きし、オリンピックの歴史やオリビズム、女性とスポーツのなど貴重なお話を伺った。更に最高学部の講義を聴講させていただき、自由学園の卒業生でパラリンピック選手の有安諒平さんから「スポーツと生きがい」について伺った。このようにオリンピック・パラリンピックについて視野を広げ

ていった。

また各教科でも普段の学習をオリンピックにつなげていただき、英語をはじめ国語、社会、美術などの学びを活かし、教科横断的な発表となった。

Ⅲ. 報告会の準備

実質的な準備は広島海山研修後の11月半ばから本番まで約3週間で行った。

これまでの学びを踏まえ、報告内容は【歴史】【競技】【文化・国際交流】【オリンピックの精神】【2020年に向けて】の5つに絞り、各自の希望でグループに分かれリーダーを中心に取り組んでいった。調べ学習にはiPadも取り入れた。

多方面の取り組みとなったため、グループ活動が把握しやすいように共通の各種記録シート、ファイルを作り定期的に提出、報告し合った。

発表はステージ上で全員で行うこととし、ギャラリーからの大きな地図をはじめ、H字T字を使用する図画や、表をグループごとに制作した。

世界地図は社会科の星住先生に指導していただきメルカトル法で正確な製図に取り組んだ。

またオリーブの葉冠やメダルを実際に作ってみるなど工夫して取り組んだ。報告しきれない内容は展示コーナーで紹介し、3面に溢れるほどとなった。(写真15~17)

文化・国際交流のグループは二つに分かれ、文化のグループはオリンピックから生まれたピクトグラムを取り上げた。はじめに身近なピクトグラムをひばりが丘周辺で調べ、ピクトグラムの理解の仕方についてアンケートを作り、学園内でも調査した。また1学期の美術の勉強を活かし美術科の金井先生の指導の下、自由学園の体操会のロゴとピクトグラムを考える発展した勉強を行った。

国際交流のグループは英語の勉強からオリンピックでのおもてなしについて考え、日本を案内する英語劇を考え、また日本の名所を紹介する英語の案内版も制作した。劇の背景には雷門やスカイツリーを丁寧に描いた(写8)。英語の発表は英語科の小山先生、シックス先生が丁寧に指導くださった。

このようにオリンピックから派生して教科横断的に学びを深めていった。

Ⅳ. 報告会の内容

【歴史】

オリンピックの歴史について、紀元前776年から始まった古代オリンピックから近代オリンピックまで、開催地の世界地図や年表(写1)を使って報告した。オリンピア競技はゼウス神に捧げる競技祭として4年ごとに開催され、争いも祭典のために「エケケイリア(聖なる休戦)」と呼ばれる休戦期間が設けられていた。報告では「平和の祭典」と呼ばれる理由に加え、当時少年競技が多く登場するのは社会が理想とした身体的な美と高潔な精神を持った「美しき人へ」教育することを目指したためであり、またオリンピックはスポーツだけでなく外交や著名人の交流や発表の機会、芸術の発展にも寄与していった歴史を報告した。近代オリンピックが1886年アテネで再開。スウェーデンで行われた第5回大会から日本は参加し、2020年には56年ぶりに東京オリンピックが日本で開催される。また勝者に贈られたオリーブの葉冠やメダルを実際に作って紹介した(写2)。

【競技】

夏季・冬季オリンピック、パラリンピック、競技会場の4点について報告した。オリンピックは夏季・冬季共に4年おきに行われている。次の夏季、東京オリンピックで行う競技一覧表(写3)を用い、新しく加わる5つの種目について報告した。また、あまり知られていない競技も詳しく展示で紹介した(写12)。その他に前回までの4回のオリンピック国別メダル獲得数を調べ表にした。人口の多い国はメダル獲得数も圧倒的に多い。また自国開催ではメダル取得数が増えており、選手にとって慣れた環境や声援が沢山届くことにより、一層力を発揮できるのではないかと考察し東京オリンピックに期待を寄せた。冬季競技の中ではフィギュアスケートを取り上げ、若手選手の活躍を紹介した。

パラリンピックでは競技や特徴について調べ報告した。男子部卒業生でパラリンピックボート競技、パラローイングで活躍している有安さんから「スポーツが生きがいになっている」と伺い、障害者スポーツが様々な人の支えになっていることを学び、デフリンピック(聴覚障害者のための競技大会)やスペシャルオリンピックスについても関心を広げレポート展示も行った(写17)。

会場についても調べた。使用される会場は43ヶ所と選手村がある(写13)。特に開会式や陸上競技で使用される新国立競技場は隈研吾氏のデザインでテーマは(風と木の夢の舞台)、全国の木が使用

されていて日本人の心を一つにする競技場である。一方、建設費や労働環境の問題点にも触れ、オリンピックの大きな晴れ舞台が多くの方の大変な思いで建設されていることを知り、マナーやルールを守りすべての人が楽しめる大会を作ることが大事だと結んだ。

【文化・国際交流】

オリンピックに関わる文化や国際理解について調べ、ピクトグラムを取り上げた。ピクトグラムは1964年の東京オリンピック開催時に日本で作られた。世界中から多くの人が集まるため、誰がみてもわかるマークを考案、著作権を放棄したことで世界中に広まった。このピクトグラムがどれだけ正確に伝わるのか調べるために女子部生と教員合計212人にアンケートを行った。その結果、温泉マークをはじめ日本人と外国人では理解に様々な違いがあることが分かり図示して報告した。現在外国人に合わせた新しいピクトグラムも考案されているが、日本の文化を大切にするために、変えてしまうのではなく、わからなければ自分たちが日本の良さを口頭で伝えることが出来るのではないかなど、自分たちでできることは何か考える機会となった。

ピクトグラムを学んだ発展として、体操会のロゴとピクトグラムを制作した。女子部の各種目「全身体操」「メイポールダンス」「手具体操」「クラブ体操」のピクトグラムを紹介した。他に体操会のロゴと各部のピクトグラムは展示し(写11・16)、制作過程をiPadにまとめて動画を展示した。普段何気なく目にしていただけのものについてよく知り、再確認し、感覚の違いを乗り越えて伝わりやすくするにはどうしたらよいかよく考える学びとなった。

国際理解のグループは「おもてなし」という観点で、どのように英語を活かせるか考え英語劇を行った。オリンピック観戦で来日された外国人をもてなすつもりで英語での案内を行った。各自担当国の国旗を下げて日本と外国人役がわかりやすいように工夫した。浅草やスカイツリーを背景に描き、東京の名所や国立競技場のへの案内、地下鉄の使い方、日本食や着物など日本文化の紹介も織り交ぜながら生き生きと発表した(写6)。また広島など日本各地の名所を紹介する案内版(写10)や世界各国のあいさつも調べ表にして展示した(写16)。もてなしとはどのようなことか相手の立場になって考え、また現在学んでいる英語が生かせる

ことを再認識した。オリンピックだけでなく学園での国際交流の機会でも今後積極的に交流したいと皆の自信につながる学びとなった。

【オリンピックの精神】

オリンピックの精神と平和について考え報告した。はじめに近代オリンピックを提唱したクーベルタンの生い立ちからオリンピック復興へ込められた願いに触れた。オリムピズムはスポーツを通して若い人々がフェアプレイの精神の下に身体と精神を鍛錬し、文化や国の違いなど様々な差異を超えてお互いに理解し合い友好を深めて世界平和に貢献してこうとするものと言われている。オリンピックの目的がスポーツの世界一を決めることではなく、スポーツを通して心身の調和のとれた若者を育て、平和の社会を創造するものであり、その価値は卓越・友情・敬意/尊重で示されるとまとめた。また「平和の祭典」として今でも休戦活動を発信し続けていること、スポーツを通じて開発することでスポーツができるような社会基盤を作るとともに、参加することで異文化対立といった社会問題への関心を刺激し、その取り組みが地球上の最も貧しい人々の人生をより良いものにする可能性がある」と述べた。また **Right to Play**(国際人道機関)の働きについて世界地図で紹介した(写7)。ペルーで定期的な身体活動を実施するよう働きかけたことで学校の出席率や意欲が高まったこと、中国での子供たちの身体、心、社会的健康改善を目指す対策に貢献していることなどを紹介した。スポーツやオリンピック等の最大の利点は競い合うだけではなく社会的な違いや国家的、地理的な環境を越えることだとまとめた。

次に広島での被爆体験談をはじめ今年度伺った沢山の平和についてのお話から、戦争を起こさないためには個人個人が外国の方と関わることが大切だと話されたことに触れ、今自分たちにできることはしっかりとお話しを心にとめ、周りに伝えていくこと、外国との交流を大切にして偏見や先入観をなくすことだ、それぞれの価値観や違いを受け入れることが争いのない世界を作る第一歩なのではないかと述べた。

最後にオリンピックで過去に国家間の争いや戦争によりボイコットなどが起こり、政治的な側面から大きな影響を受けた歴史を紹介しこのようなことがあってはならないと力強く訴えた。またフェアプレイの精神で戦った様々なエピソードも調

べ報告した。

オリンピックを平和と政治という観点から学び、オリンピックのもたらす強大な影響力は立場により良くも悪くもなるということ、現在と昔の考え方の違いなど多くの発見と学びがあり、平和な未来への思いを強くした。

【2020年に向けて】

いよいよオリンピック・パラリンピックが東京で開催される。まず大会のコンセプトを紹介した。「全員が自己ベスト、多様性と調和、未来への継承」。この大会には、東日本大震災からの復興を示し世界各国からの支援に対する返礼の意味を持つ特別な思いが込められていて、宮城県に予選会場を設ける、被災地の住民が聖火リレーに参加するなど東北でも関わられるよう工夫されている。また様々な準備が行われる中でボランティアに着目した。活動内容は案内や競技サポートだけでなくテクノロジーやヘルスケアなど多岐にわたる。応募者20万人余りの男女比は4対6と女性の比率が高く、女子部でもパラリンピックのテニス競技でボールパーソンをする上級生を紹介した。

自分たちで出来ることを考え、休戦と平和を願い、平和の象徴折り鶴を折り選手へ応援メッセージを書く企画を見つけクラス皆で行った。メッセージは国語の勉強で研修旅行の際、全員が丁寧に手紙を書く学びがあり、選手を思いながら期待を込めたメッセージが集まった。来場者も共に鶴やメッセージが贈れるように展示した(写14)。たくさん活動があることを知り、今後もこの機会を通して外国の方との交流を深めるなど積極的に関わっていきたいと思いが膨らんだ。

【リーダー挨拶】

リーダーの挨拶では、この学びを通して皆の意識が変わった。また実際に田原先生や、平和学習などたくさんのお話を伺う機会もあった。この学びを生かし私たちの身近なところから平和にするなど少しずつ実践していき、2020年の東京オリンピックにつなげていきたいとまとめた。

V. 報告会を終えて

オリンピックを身近に感じられなかった生徒たちが、この学びを通し本来の目的や意義を知ると同時に、平和をつなぐ一人として、今自分たちが何ができるのかをそれぞれが考える機会となったことは貴重な学びであった。

今回は家族ごとではなく、興味を持った分野で学びを深めた。どのグループも勢いがあり、どんどん調べ工夫していき、当日には報告しきれないほどとなった。時間が限られているため、互いに聞き合い取捨選択し、本当にステージで伝えたい内容にまとめその他は展示とした。3面の展示コーナー一杯に充実した展示となった。中等科の報告会にiPadを使用したのはおそらく初めてだったと思う。調べ学習やピクトグラム制作などに活かし展示コーナーでも活用できた。

オリンピックが単なるスポーツの戦いやスポーツ観戦の場ではないこと、歴史的な変遷を経て今日があり、次のオリンピックが東京に来ることは本当に恵まれた経験になると実感する学びとなった。それぞれの生涯に生かされていくことを願う。

VI. 終わりに

報告会にあたりご多忙の中、田原先生には学園にお越しいただき心より御礼申し上げます。また英語科の小山先生には準備期間を通して特別にご尽力いただいた。その他シックス先生、河原先生、金井先生、星住先生、谷先生、奈良先生、早野先生にも要所要所でお力添えいただいたことに感謝したい。また図表の制作にご協力いただいた皆様にも御礼申し上げます。

VII. 参考文献

- (1)『スポーツの世界地図』 寺島善一 丸善出版 2012年
- (2)『オリンピック大百科』 成田十次郎 あすなろ書房 2008年
- (3)『オリンピック・パラリンピック学習読本 中学校編』 東京都教育委員会 2018年
- (4)『オリンピック・パラリンピック 大百科1~8巻』 日本オリンピックアカデミー監修 小峰書店 2016年
- (5)「まるわかり！パラリンピックってなんだろう？」 文研出版 日本障害者スポーツ協会 2014年
- (6)「一般財団法人全日本ろうあ連盟スポーツ委員会」 <https://www.jfd.or.jp/sc/deaflympics>
- (7)「東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会」 <https://tokyo2020.org/jp/>
- (8)「YOKOHAMA PEACE プロジェクト」 https://tokyo2020.city.yokohama.lg.jp/event_20200501/



写真1：歴史・開催地



写真2：オリーブの葉冠とメダル



写真3：競技種目



写真4：ピクトグラム



写真5：国際交流



写真6：日本を紹介（英語劇）



写真7：Right to Play



写真8：雷門

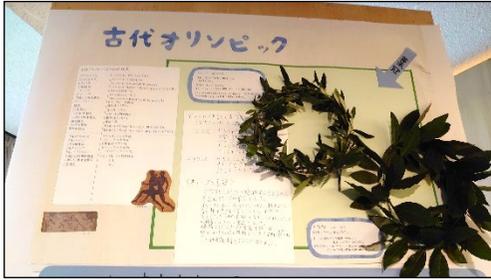


写真 9 : 勝者への葉冠

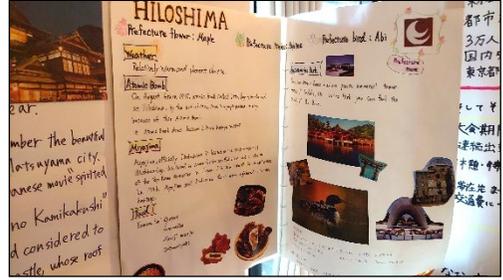


写真 10 : 広島を紹介 (英語)



写真 11 : 考案した体操会のピクトグラム



写真 12 : オリンピック種目の紹介



写真 13 : オリンピック会場一覧



写真 14 : 平和の折り鶴

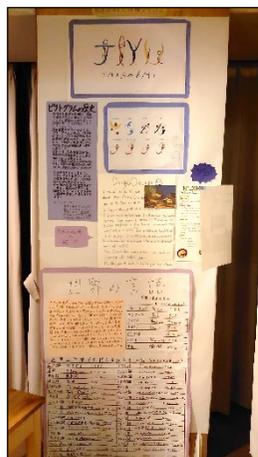
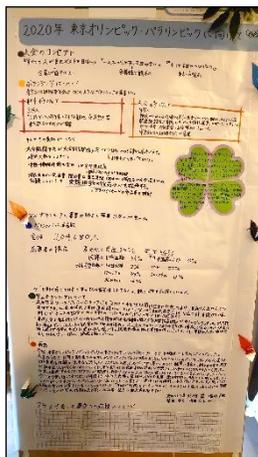


写真 15 ~ 17 : 展示コーナー (3面)



写真 18 : 世界地図 (開催地)